

パニウム - ナンバー・トゥエルブ

ダニエル書11章40節と預言の三つの封印解除

Jeff Pippenger

2025-09-12

ダニエル書十一章四十節は、聖書の中でも最も深遠な節の一つである。それは、1798年、1989年、そして2023年におけるダニエル書の開封を表している。この書が三度開封されたことは、「七つの時」の散らしの終結を示している。1798年は、紀元前723年にアッシリアが北方の十部族を捕囚へと連れ去った時に始まった、二千五百年に及ぶ散らしの終結を画した。1989年は、セブンスデー・アドベンチスト教会がレビ記二十六章の「七つの時」を公式に退けた1863年の反逆以来、126年の終結を画した。2023年は、黙示録十一章における二人の証人が通りに死んで横たわっていた三日半の終結を画した。二千五百年（126年および三日半——いずれも「七つの時」の象徴）の終結において、ダニエル書は開封された。

ホワイト夫人は、1798年には、人々が恩恵期間の終わりに関連した出来事を知らされる必要があったと私たちに教えている。彼女がこの事実を記すとき、彼女は並行する歴史を指し示している。というのも、彼女はまた、終末のメッセージを恩恵期間の終わりに結びつく出来事としても表しているからである。ミラー運動の歴史について述べる中で、彼女は次のように記している：

人々が自らの危険に気づかされることが必要であり、また、猶予期間の終結に関連する厳粛な出来事に備えるよう鼓舞されることが必要であった。The Great Controversy, 310.

彼女が記録している最後の日々について言えば：

十字架にかけられる前に、救い主は弟子たちに、自分が殺され、墓からよみがえることを説明され、その言葉を心に深く刻ませるために天使たちがそこにいた。しかし弟子たちは、ローマのくびきからの地上的な解放を期待しており、彼らのすべての希望を託したお方が不名誉な死を遂げるという考えを受け入れることができなかった。彼らが心に留めておくべき言葉は心から追いやられ、試練の時が来たとき、彼らは備えができていなかった。イエスの死は、まるで事前に警告がなかったかのように、彼らの望みを完全に打ち砕いた。同じように、預言においても、将来はキリストの言葉によって弟子たちに示されたのと同じくらい明瞭に、私たちの前に開かれている。恵みの時の終わりに関わる出来事と、艱難の時に備えるための働きは、はっきりと示されている。だが多くの人々は、これらの重要な真理について、まるで決して明らかにされたことがないかのように、理解していないのと同然である。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるあらゆる感化を奪い去ろうと目を光らせており、彼らは備えのないままで艱難の時を迎えるだろう。『大争闘』 595.

ミラー派のメッセージは1798年に封印が解かれ、「恩恵期間の終わりに関連する出来事」を提示した。彼女は終わりの日々について語る時、弟子たちの歴史を用いて、「恩恵

期間の終わりに関連する出来事」こそが人を救いに至る知恵に導くものであるが、理解されていないという事実を示している。1798年、1989年、2023年に封印が解かれたメッセージは、「恩恵期間の終わりに関連する出来事」を特定するメッセージであった。

第40節は、ダニエル書の封印が三度解かれる時を示す歴史的な線を表している。1798年には、ウライ川に関するダニエルの幻（7章から9章に当たる）の封印が解かれた。1989年には、ヒデケル川に関するダニエルの幻（10章から12章に当たる）の封印が解かれた。2023年には、ダニエル書11章40節の隠された歴史の封印が解かれた。

四十節の歴史は、1798年から四十一節にある日曜法に至るまでを表しており、それは、黙示録13章の地の獣、黙示録16章の偽預言者、そして聖書予言における第六の王国でもあるアメリカ合衆国の歴史である。ダニエル書11章の四十節に表されている同じ歴史は、黙示録の一節にも表されている。

また、私は地から上ってくるほかの獣を見た。それには子羊のような二本の角があり、竜のように語った。黙示録 13:11

この節は、四十節と同様に、1798年の外国人・治安法に始まり、国家が竜のように語る日曜法で終わる歴史であり、教皇ローマが王座から退けられるときに始まり、教皇ローマが王座に復帰するときに終わる歴史である。黙示録13章11節とダニエル書11章40節の双方に示されているこの歴史は、聖書の預言における第五の王国が取り除かれることから始まり、第六の王国が取り除かれることで終わる。

聖書預言の第一の王国であるバビロンが第二の王国に至るまで支配した「七十」年は、1798年から日曜法に至るまでの40節の歴史を表している。

その日には、ツロは一人の王の日数のように、七十年の間忘れられる。七十年の終わりには、ツロは遊女の歌のように歌う。「琴を取り、町を巡れ、忘れられた遊女よ、巧みに奏で、多くの歌を歌え。そうすれば、おまえは思い出される。」七十年の終わりの後、主はツロを顧みられ、彼女は再びその報酬に向かい、地の面のあらゆる国々と姦淫を行うであろう。イザヤ 23:15-17。

1798年から日曜法に至る歴史は、イザヤ書23章に記されているように、ツロの淫婦が忘れ去られる時代の歴史でもある。その期間は「七十年」および「ひとりの王の日々」と表現されている。ネブカドネツアルからベルシャツアルに至るまで、聖書預言における第一の王国が支配し、こうして、子羊として始まり最後には竜のように語る聖書預言における第六の王国を予表している。ネブカドネツアルは子羊に従う者を、ベルシャツアルは竜に従う者を表している。

1798年から日曜法に至るまでの歴史は、黙示録14章の三天使の歴史でもあり、ミラー派の改革に始まり、十四万四千人の改革に至って終わる。三天使のメッセージは裁きの時のメッセージである。ミラー派は裁きの開始に関する出来事を告げ知らせ、十四万四千人は恩恵期間の終わりに関する出来事を告げ知らせる。

恩恵期間の終わりに関連する出来事は、預言の内的および外的な系統において描かれており、その出来事は主としてダニエル書11章40節に示されている歴史の中で起こる。40節

の出来事は米国の「日曜法」で終わるため、なおバビロンにいる神の他の子らの最終的な呼び集めの出来事は40節には表されていない。それでも、その時世界が直面する危機はちょうど米国で終わったばかりである。これらの出来事は、米国に対する裁きと、教会が旗印として高く掲げられることに先立つ神の教会の清めを表している。

恩恵期間の終わりに結びついた内的な出来事は、終わりの時の民の間で神の奥義を完成させるという大祭司としてのキリストの働きを明らかにする。外的な出来事は、アメリカ合衆国が教皇権に権力を回復させる上で果たす役割を明らかにする。聖書預言における第六の王国としてのアメリカ合衆国の全歴史も、ラオデキア的全歴史も、四十節によって表される歴史の中で起こる。

四十節における内的な流れと外的な流れは、地の獣の二つの角によって表されている。共和主義の角が外的な流れであり、プロテスタント主義の角が内的な流れである。両方の流れは第六の王国の歴史の中に存在し、第六の王国の歴史の結末において、神の裁きがプロテスタント主義と共和主義の両方の角に下される。猶予期間の終わりに関連する出来事を明らかにするメッセージは、アメリカ合衆国がその猶予期間の杯を満たしていく中で、それにもたらされる出来事を明らかにするメッセージである。猶予期間の終わりに関連する出来事を明らかにするメッセージはまた、セブンスデー・アドベンティズムがその猶予期間の杯を満たしていく中で、それにもたらされる出来事を明らかにするメッセージでもある。

四十節の歴史の中では、ダニエル書の封印が三度解かれ、その三度それぞれに、「恵みの時の終わり」に結びつく出来事を提示する内的な線と外的な線が生じる。三つの道標のそれぞれに先立って、「七つの時」の散らしがある。ゆえに四十節は、1798年から日曜法に至る歴史を表しており、その歴史における預言的な道標は「恵みの時の終わりに関連する出来事」である。四十節の歴史において、内的な線は、初めにはフィラデルフィアからラオデキアへの移行を、終わりにはラオデキアからフィラデルフィアへの移行を表す。初めは、十人の乙女のたとえにより示される改革運動を表しており、そのたとえは終わりにおける改革運動の型であって、終わりにはそのたとえが文字どおり成就した。

ミラー派のフィラデルフィア運動は、1798年にレビ記26章の「七つの時」の成就から始まり、続いて1844年10月22日に「七つの時」のもう一つの成就があった。少なくとも1856年までには、ジェームズ・ホワイトもホワイト夫人も、その運動がラオデキア的狀態にあると認識していた。同年、「七つの時」に関する新しい光が、未完に終わった教会の公式刊行物で提示された。1798年は「七つの時」の成就であり、その後ウィリアム・ミラーは、ホワイト夫人がそう呼んだ「真理の連鎖の出発点」を発見したが、その出発点とは「七つの時」であった。1798年は「七つの時」の成就であり、その後、ダニエル書の封印が解かれるにつれて、ミラーは基礎的な発見として「七つの時」を見いだした。その後、1844年10月22日が「七つの時」のもう一つの成就を画し、そののち、運動はフィラデルフィアからラオデキアへと移行するが、それは「七つの時」に関する新しい光が未完のままにされた同じ年のことであった。1863年には、1856年までミラー派のフィラデルフィア運動であり（その年にミラー派のラオデキア運動へと移行した）その運動が、法的に登録された教会となった。これは主として、南北戦争のさなかに、教会の若者を守るという名目と圧力の下で行われた。教会となった1863年に、その運動は終わった。その7年前の

1856年、ラオデキアは、ウィリアム・ミラーの最初の預言的発見であったまさにその主題に関する新しい光のメッセージを退けた。

ミラライト運動において「真理の連鎖の開始」と呼ばれる光、すなわち「七つの時」の光はラオデキア運動の指導部に開かれたが、彼らは次第に「七つの時」を堅持しようとする意志を捨てていき、1863年に七年（「七つの時」）が満了すると、「七つの時」への言及のない新しい図表と預言的メッセージが生み出された。

1863年、イザヤの六十五年の預言の結末は、それが始まったのとまさに同じところ、すなわち北と南の間の内戦において迎えられた。1863年における奴隷制の問題は、「七つの時」の成就として北王国と南王国の双方が連れ去られたことによって象徴されており、イスラエルが連れ去られて置かれた奴隷状態は、終わりににおける奴隷制の問題を的確に表していた。1863年は、イザヤの六十五年の預言に基づく預言的構造の終わりを示している。

主なる神はこう言われる。「それは立たず、成就もしない。シリアの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィンである。六十五年のうちにエフライムは砕かれて、もはや民ではなくなる。エフライムの頭はサマリア、サマリアの頭はレマリヤの子である。もしあなたがたが信じなければ、必ず堅く立つことはない。」イザヤ書 7:7-9

正しく理解すれば、紀元前742年に始まるこの預言は、65年の期間の中に三つの道標を示している。その道標のうち二つは、イスラエルの北王国と南王国の双方に対する二千五百二十年に及ぶ捕囚と奴隷状態の起点を示している。紀元前742年、南北両王国は内戦状態にあり、北の十部族は南王国ユダに侵攻するためにシリアと同盟を結んでいた。その19年後の紀元前723年、北の十部族はアッシリア人によって捕囚とされた。さらに46年後の紀元前677年、アッシリア人はマナセを捕らえ、バビロンへ連行した。紀元前723年から二千五百二十年後は1798年で、終わりの時であり四十節の始まりである。その46年後、紀元前677年に南王国に対して始まった「七つの時」は1844年に終わった。さらに19年後の1863年には、紀元前742年の預言的特徴が文字どおり表れている。紀元前742年と1863年には、北王国と南王国の間の内戦が進行している。紀元前742年には、悪しき王アハズに与えられたイザヤの予告は北王国と南王国の双方の差し迫った奴隷化に関するものであり、1863年には、南北戦争のまさに只中でリンカーン大統領が奴隷解放宣言を公布し、奴隷制度を終わらせる過程が始まった。紀元前742年に悪しき王アハズに与えられた警告は、文字どおりの栄光の地で与えられ、それは霊的な栄光の地でリンカーンによって与えられたメッセージを型どっている。

1856年にハイラム・エドソンによる「七つの時」のメッセージが公刊されてから七年後、アドベンティズムは1863年の図表を作成し、その図表ではミラライトの「七つの時」の教えが取り除かれていた。そのため、エレン・ホワイトが私たちはミラライトのメッセージを繰り返すべきであり、またそれらのメッセージへの攻撃に対して弁護すべきだと教える数多くの箇所が、疑問視されることになった。同じ年、彼らは法的に登録された教会となった。1863年とその預言的な含意についてはさらに多くを書くことができるが、ここで私が指摘しているのは、1863年の反逆を示す証左が内的にも外的にもいくつか存在するということである。すなわち、それが南部諸州による外的な反逆であれ、第一の基礎

的真理の拒否という内的な反逆であれ、1863年の反逆を指し示している。1863年は、第40節の歴史の中の出来事の一つであり、「猶予期間の終結に関連する出来事」を構成する道標を表している。

1863年は、字義的な古代イスラエルにとっての荒野における四十年の始まりと符合する。四十年の終わりには、ヨシュアが古代イスラエルを約束の地へ導き、彼らはエリコを陥落させ、エリコを再建する者には誰であれ呪いがあると宣言した。1863年には、ラオデキヤ的アドベンチスト運動の指導部がエリコを再建した。1863年は、荒野の四十年の始めと終わりの双方に対応している。1863年は、四十節の歴史における外的線と内的線の歴史を結び付ける預言的な道標である。第七の教会、すなわち「ラオデキヤ」という語が意味する「裁かれた教会」が、ひとつの世代全体が荒野で死に絶えることで表される期間に入っていく。同時に、最初の共和党の大統領が奴隷解放の働きに携わっており、それによって、危機の時期に戒厳令を実施し、靈感が「国家的破滅」と呼ぶ事態へと至らせる最後の共和党大統領たちの型を示している。

初めの道標の中に終わりの道標が表されており、さばきの終わりに関わる出来事は、さばきの始まりに関わる出来事の中に予型として示されていた。四十年の初めにカデシュでヨシュアとカレブのメッセージを退けた反逆は、四十年の終わりにモーセがカデシュで岩を打った反逆を予表していた。1863年は、ラオデキアが主の口から吐き出され、エゼキエル書八章でエルサレムの二十五人の長老が太陽を拝み、そして「主の宮はわれわれだ」という偽りの言葉を頼みとする者たちの上にシロが再び起こる、その地点としての日曜法を指し示している。

このパニウムに関する研究は次回の記事で続けます。